



採用されたホイールは24インチの「Gianelli BOLOGNA」。ちなみにSRXのP.C.D.は特殊で、6/120というサイズ設定。よってこのホイールは本誌でのワンオフ製作となっている。タイヤは275/30ZR22 (FALKEN)。



フロントマウントはGM公認のDOTマウントを採用。ドアの開口部にはキャタラーック・ブラケットをマウントして、カラーLEDカーテッジ・ランプ・アンテナはオプション。



グリルとサイドベントはアメリカの老舗ブランドE&Gクラシックスを模名。このパーツの装着が印象を大きく変える効果を発揮している。



フロントセクションに厚みをもたせ、インパクトを増大させたエムズスピードのハーフスポイラー。ディテールにこだわったデザインがSRXに相応しい。



フロントのハーフスポイラー装着に合わせ施工された各部のマツチペイント。都会的な雰囲気の向上に大きく貢献するカスタムポイントだ。

キャデラック・ブランドのDNAを受け継いだ新世代アメリカンSUVが、SRXクロスオーバーだ。あらゆる道をダイナミックに駆け抜けるパフォーマンスを与えられながらも、メインストリートはあくまでストリート。一切の泥臭さを排除した洗練フォルムが、いま多くのファンから注目を集めている。

際立ちかけたのがSTGだ。もともとSUVカスタムには一言をこぼすフットリだけに、そのマシローチは斬新で能動的だ。まず最初に取り組んだのはホイールの置換だ。キャデラック仕様の至刀、ガードとサイエンスを継承するモデルだけに、そのチヨイスはセンシティブ。コンサバでは物足りないし、ラティカル過ぎて合わない。そこでマビを付けたのがGianelli

「e」(シエネリー) 近年のカスタムシーンに欠かせない最重要ホイールブランド。シオパシナの別ラインである。

こうして考え抜かれた未、ブラチオハイスのボディに装着されたはシエネリー「BOLOGNA」ハローニエリーの24インチ。ノリド踏あられる本物のサイエンスパークが、エッジの効いたSRXのデザインを足元からサポート。見事な一体感を演出していることに成功している。しかも、この部分にはオーナーの意図が、ハローニエリーよりもやや明瞭な「Gianelli」のロゴが、エッジの効いたアクセントとなり、全体的な洗練を演出している。

もともとSRXには、ハローニエリーとシエネリーにはエムズスピードを採用。ホイールのフロントセクションにインパクトを与え、前後左右のアンダーやルーフサイド、サイドスカート部にもマツチペイントを施すことで、都市的な視覚的効果を高めているのがわかる。

さらに印象的なのはE&Gクラシックスのエレメント。メッシュタイプのグリルをメインとハンズ「下のサブグリル」に装着し、追加して左右のアンダーにも専用サイドベントをフィッティング。これらパーツを効果的に配置することで、SRXクロスオーバーは「Urban SUV」としての純度を高めているのである。



純度を増したアーバンSUVの本領発揮!

エッジを効かせたダイナミックなスタイリングと悪路をモノともしない走破性で一躍、脚光を浴びたキャデラックSRXクロスオーバーは、実はカスタムベースとしては手ごわい相手だ。そんな強者を巧みに操り、見事なアーバンSUVとして変身させた秘策は、厳選されたエレメンツにあった!

URBAN SUV WHICH INCREASED THE PURITY

2012 CADILLAC SRX CROSSOVER

#06